

▼要点の整理▲

1 次は本文を段落ごとにまとめたものである。空欄に本文中の語句を補いなさい。

● 第一段落（初め〜二九四・一）：帰国する船の中

① 「」に帰る船中で、豊（とよ）太（た）郎（ろう）が回想を記す。

● 第二段落（二九四・2〜二九九・7）：生い立ちと留学生活

豊太郎は、幼い頃より優秀で、某省に出仕して、官長から洋行の命を受ける。

② 「」の都に来た豊太郎は大学の自由な空気に触れ、しだいに独立の思想

を抱くようになる。周囲の者はそれをよく思わなかった。

● 第三段落（二九九・8〜三〇七・14）：エリスとの交際と免官

ある日の夕暮れ、③ 「」 巷（こう）の小寺の前で少女に会い、その

少女を援助することになる。少女はヴィクトリア座の④ 「」 でエリスと言った。同

郷人からエリスのことを官長に報告された豊太郎は、免官になり、同じ頃、母の死を知る。

豊太郎は友人の⑤ 「」 の世話で新聞社の通信員となり、エリスと暮らし始

める。

● 第四段落（三〇七・15〜三二七・4）：エリスの妊娠とロシアで活躍する豊太郎

豊太郎は、⑤ の計らいで⑥ 「」 伯のために翻訳などをして信頼をえる。⑤

は、豊太郎にエリスとの仲を断つことを約束させる。その後、⑥ 伯の通訳としてロシア

に行き、活躍する。ロシアから戻った豊太郎を、妊娠したエリスが迎える。

● 第五段落（三二七・5〜終わり）：帰国する豊太郎

⑥ 伯は豊太郎に、ともに帰国することを勧め、豊太郎は承諾する。しかし、罪の意

識から人事不省に陥る。看病するエリスに ⑤ は豊太郎の帰国を伝え、エリスは生ける

⑦ 「」となる。豊太郎は ⑤ に対して、良友であると思うと同時に、彼を

⑧ 「」を抱くことになる。